転がし遊び

この事例は、「これまで、転がし遊びの経験がなかった4歳児が、転がし遊びに興味をもち、『こうしたらどうなるかな?』『もっと面白くしたい』と、繰り返し取り組む過程に、『科学する心』の育ちを捉えた」実践です。 転がし遊びは多くの園で見られる遊びの一つです。同じ素材や材料を使って同じような遊び方をしているように見えても、よく見ると、そこで試そうとしていることや気付き・疑問などは変化しています。

保育者による、子どもたちの先行経験を踏まえた、目の前の子どもたちの実態に応じた援助が、子どもたちの体験を深め、協働的な取り組みの支えとなっていることを読み取ることができます。

学校法人恵愛学園 愛泉幼稚園

4歳児

4月、3歳児の頃から慣れ親しんだミニカー、プラレールの遊びに、既製のレールを組み合わせて遊ぶ姿があった。保育者が作った画用紙の坂に魅力を感じたEさんが、「滑り台」と言ってミニカーを走らせる。しばらく、友達同士で遊具や画用紙を組み合わせるなど、工夫して遊んでいた。画用紙でできた坂道は、しばらくすると壊れてしまったが、転がす遊びの楽しさは子どもたちの中に経験として残ったのか、Aさんから「今度はビー玉転がしが作りたい」という声が上がった。最初は保育者も一緒に作る援助をしたが、次第に子どもたちは、様々な素材と出合う中でいろいろなコースを作り、繰り返し転がすことを楽しんだ。

場面1:長一い坂を作りたい! 10月

・Aさんの「今日は一番長い坂を作りたい」の言葉から、長い坂道作りが始まった。保育者は、道具を運ぶ係になった。子どもたちは、組み立てていく。

Fさん: 「ちょっと、誰か、ここ持ってて!」

Oさん:「分かった!」

E さん:「僕、台(ビールケース)を持ってくる」 J さん:「**ダメだ、ここからずれてきちゃう**」

Bさん:「ここに箱(ビールケース)を入れればいいんだよ」

- ・今までよりも長く、大きなドングリ転がしの装置ができあがった。い ざ、ドングリを転がす段階になって、子どもたちは**スタート地点が坂 道ではなく平坦なため、ドングリが転がらないということに気付いた。** 保育者は、「ドングリ、転がらないね。どうする?」と、解決方法を考え られるように投げかけた。
- ・しばらく考えた後、Aさんが、「大丈夫だよ。こうすればいいんだよ」と、 ドングリを指で弾いた。ドングリが指の力で飛び上がり、偶然にも樋の中 に落下し、落ちた所からそのまま坂道を転がっていくと、「ほらね」と言う。

場面2:牛乳パックで転がそう!~坂があればいいよ~ 11 月下旬

・Aさん、Bさん、Fさんが、保育室に置いてあった牛乳パックをハサミで切り開き、ガムテープで繋げ始めた。保育者が見て声をかける。

A さん:「ビー玉転がし作ってるんだよね」B さん・F さん:「ねー!」

保育者:「うわぁー!楽しそうね。牛乳パックで作るの?」

A さん: 「そうだよ」と、嬉しそうに答えた。

・牛乳パックを自分たちで他のクラスからも集め、**切り開いたり、繋ぎ合わせたり、皆で力を合わせて作り始めた**。「やったー!できたー!」

保育者 : 「やったね!長くなったね」

・皆、嬉しそうに牛乳パックを眺め、長く繋がったことを喜び合う。

保育者:「でも、これはどうやって遊べばいいのかな?」

F さん:「**坂があればいいよ**」

保育者:「そうだよね。転がすには坂がいるよね。でも、坂…ないねぇ。ど うする?」

・子どもたちがしばらく考えた後、Fさんが、「分かった!いいこと考えた!ちょっと持ってきて」と言うと、皆をステージまで連れて行った。Fさんは、「ほら、こうしたら坂道ができるよ」と言い、持ってきた牛乳パックをステージに斜めになるように立てかけた。すると、周りにいた子どもたちも、Fさんの考えに納得したようで、「いいねぇ!」と、皆が賛成した。転がすものはペットボトルのキャップ。早速キャップを転がしてみると、コロコロと転がっていった。皆で代わる代わるキャップを転がして遊ぶ姿が見られた。

保育者の援助

経験している内容



省察促し

自分たちで、考え出せるよう 声をかける。

挑戦する・探究心・思考をめぐらせる・問題解決のための話し合いや工夫・協力・没頭・面白さの追求

見守り・共感

樋を使った経験から、樋と牛乳パックのイメージが重なったのだと思われる。子どもにとっては、少々硬い牛乳パックを根気強く切っている姿を見守る。

共感・省察促し

長く繋がった喜びを共有した。 さらに、遊びがより面白くな ることを願って、問題を明確 にした。



新たな素材で探究・問題解決のための意欲・協力・達成感・賛同・ 工夫・気付き

場面 3:角度を調整しよう! 12月

・その後も、牛乳パックを繋げる遊びが続く。家庭からも牛乳パックが集まり、どんどん長くなる。坂道を作るには、ステージだけでは足りなくなってきた。子どもたちは早速、キャップを転がそうとするが、キャップはスムーズに転がらず、途中で止まってしまった。子どもたちは**牛乳パックを触って確かめ始めた**。

I さん:「ここを高くすればいいんじゃない?」

Hさん:「**この場所で止まっちゃうよ。ここ持った方がいいよ」** I さん:「ガムテープにくっ付いて転がらないんじゃない?」 A さん:「もう一回、しっかり貼った方がいいんじゃない?」

- ・子どもたちは、ガムテープが浮いてきてしまっている所を探し、もう一度 しっかりと止め直し、高さや角度などを調節しながら試す。キャップが転 がらない理由を一生懸命に考えながら、自分の考えを出したり、友達の考 えに耳を傾けたり、一緒に試していた。次第に牛乳パックの下に潜り込み、 手で支える、頭で支える、体で支える…と、丁度良い角度を探しながら、 自分たちの体を使って支えることが楽しくなってくる。
- ・Rさんが、「見て見て!」と、面白い支え方を考え、おどけて見せる姿に、"何だか面白そう"と、子どもたちは惹かれて、真似していく。最終的に、「誰かが押さえて持っていればいい」という提案で落ち着き、Rさんに「はい、先生もここ持って!」と、保育者も駆り出され、皆で牛乳パックのレーンの下に潜り込んで支えるという遊びを楽しんだ。
- 「はい、いいよ!」「行くよー!」「先生、もう少しそこ上に上げて!」「Aくん、 もう少し下!」「やったー!」と、子どもたちはお互いに角度を調節しな がら、力を合わせて遊ぶことを楽しんでいた。

場面4:複雑になる坂道 1月

- ・Eさんが、ホール遊び用の樋を見付け出し、まるで宝物を見付けたかのように喜ぶ。早速、樋と樋を連結させていると、友達もやって来た。 E さんに、保育者と一緒に遊びたいという気持ちが感じられたため(E さんの性格からも)、保育者も仲間になって一緒に作ったり、ピンポン玉を転がして試したりした。ピンポン玉は、今までの折り紙の玉やペットボトルのキャップより、よく転がることに気付き、子どもたちは夢中になって転がして遊んだ。
- ・「ピンポン玉転がし」が再び人気の遊びとなり、多くの友達が遊びに参加す、る。 E さんたちは、ゲームボックスも使い、より高く、ダイナミックに遊具を組み合わせて遊ぶ。そして、樋の連結のために用いる、新しい部品と出合う。 E さんが、「ほら、見て!落とし穴!」と、落とし穴から落ちた玉が転がるように絶妙なバランスで樋の坂道を作っていく。
- ・慎重なBさんやDさんはじっくりと考えながら、どんどん作るEさんに対し、**道のバランスをとる**。
- ・Sさんが、「ほら見て、トンネル!」と、縄跳びでトンネルを作ると、Hさん、Iさんも真似をして喜ぶ。樋の重なり方が反対で、転がした玉が止まってしまった。するとBさんが、「こうすればいいよ」と言って、樋の重なりを直した。
- ・様々な形で転がす遊びを遊び込んできた子どもたちは、樋の坂道もたやすく作れるようになった。また、落とし穴にできる部品を見付けたことで、落とし穴や縄跳びで作ったトンネルなど、仕掛け作りに夢中になった。ピンポン玉やボールなどの転がす玉を様々な遊具で試し、転がり方の違いを発見し、驚く様子も見られた。さらに、コマ回しが得意なCさんは、回したコマを樋の坂道にのせて滑らせることを繰り返し楽しんだ。





目的の共有・試行錯誤・問題解決の ための話し合い・アイデアの共有・ 没頭

共感・省察促し

保育者も仲間の一員となって 一緒に試したり、楽しさに共 感したりする。



共感・省察促し

保育者も仲間の一員となって 一緒に試したり、完成まで頑 張ったことに共感したりする。



目的の共有・役割分担・仕組みの 理解・相手の考えやイメージを受 け入れる

【考察】 長期にわたり、転がし遊びの変化を辿ってみると、子どもたちは経験を重ねる毎に、遊び方がより複雑に、よりダイナミックに変化しており、成長が感じられる。子どもたちは、実際に樋を組み合わせながら、「こうしたらどうなるかな?」「もっと面白くしてみたい!」と、試行錯誤するようになった。そして、素材を変え、角度を変え、穴を作り、分かれ道やトンネルなどの仕掛けを作るなどの工夫を楽しんだ。そして、遊びの中での緩やかな坂と急な坂の違い、玉が転がる樋の重ね方、高低差の作り方、道筋を考えての段差の付け方などの知識を獲得していく。そして先行経験を次の遊びへと生かしていく。この遊びでは、「こうしたらどうなるのかな?」と考える探究心、課題に向かっていこうとする力、友達と力を合わせる協働性などが育っていったと考えられる。